

(様式4)

教育研究グループ「研究成果」報告書

報告日 令和 4年 4月13日

グループ名	東京都立光明学園 肢体不自由特別支援教育 作業学習研究会	フリガナ 代表者氏名	サトウ ナオコ 佐藤 尚子
学校名 (代表者)	東京都立光明学園 田村 康二郎	電話番号	03-3323-8421
研究テーマ	自己有用感を高め、就労や社会参加につながる肢体不自由児に適した作業学習の開発		
研究期間	令和2年10月 29日 から 令和 5年 3月31日まで		
研究結果 の概要 ※詳細は別 紙により 報告	<p>本研究は、本校肢体不自由教育部門高等部に在籍する、知的障害を併せ有する生徒たちの就労や社会参加する力を高める作業学習の開発を目的に開始した。</p> <p>流れは、次のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none">1 本校作業学習の課題2 仮想会社の設立に向けて3 作業学習の実践 ～7つの仕掛け4 本校の全国公開研究発表会での実践報告5 まとめ <p>本研究は、令和4年2月5日に本校で開催された、東京都立光明学園 全国公開研究発表会（オンライン開催）にて、20分間の実践報告を行った。全国から300名を超える参加者があり、研究の成果を広めることができた。</p> <p>また、株式会社たすく齋藤 宇開 氏による講評と、障害者の就労に向けた記念講演をいただいた。参加者からも「作業学習の進め方や工夫点について、大変参考になった。」等の感想をいただいた。</p>		
その他 特記事項			

可能性を追求するキャリア教育の推進・新たな作業種へのチャレンジ 「生徒がぐっと伸びる！作業学習の仕掛け」

東京都立光明学園
肢体不自由教育部門 高等部
主幹教諭 佐藤尚子

1 本校作業学習の課題

作業学習とは、特別支援学校において、作業的活動の中で働く意欲を育てて、将来に必要な力を総合的に身に付けさせる学習である。各教科、道徳科、外国語活動、特別活動及び自立活動の全部又は一部を併せた指導のひとつであり、「日常生活の指導」、「遊びの指導」、「生活単元学習」などがある。

これまで、本校肢体不自由教育部門、高等部では、肢体不自由の生徒にあった作業課題を、的確に見つけることができていなかった。手指の巧緻性が低い生徒が多い中、販売を目標とする物づくりが中心課題であり、各教員の、肢体不自由と知的障害を併せ有する生徒への進路指導経験が少ないことも課題の一つであった。

高等部で就労を目指す生徒たちは、3つの「わからない！」思いを抱えていた。「今、何をすべきか。自分はどんな人間か。将来自分は何をして、どのように生きたいか。」である。明るく真面目な生徒達だが、自己理解に乏しく、進路について具体的に将来を考えることが難しい状況であった。

2 仮想会社の設立に向けて

私は、生徒のもつ力を十分に引き出し、校内人事や社会状況が変わっても持続可能であり、自立と社会参加を目指して、校内や地域社会に還元できる作業学習とは何なのか考えた。導き出した答えは、作業学習で、具体的な社会経験を積ませたい。という願いであった。「そうだ、限りなく実践的な、仮装会社を作ろう！」高等部の課題や、生徒の困り感を解決し、社会に羽ばたく生徒を育てるという、私のチャレンジが始まった。

そして今年度4月。生徒6名と共に社名を決め、晴れて「^{こうせい}光清カンパニー」が誕生した。社名やロゴ、自分たちの働く顔のイラストは、社員である生徒達の力作である。【図1】

^{こうせい}光清カンパニーの主な業務は2つである。

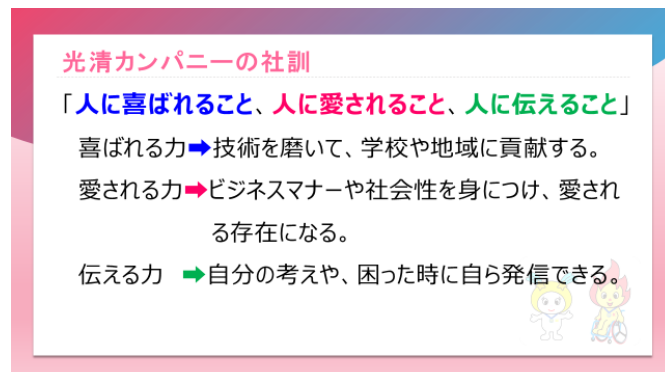
一つは除菌清掃である。コロナ禍の時代に即しており、光明学園の仲間たちを、ホコリや菌から守る事ができる。清掃は、どの職業においても基本であり、身体の扱い方も上達できると考えた。2つ目は事務作業・事務補助である。教職員業務の一部を担うことで、すぐ誰かの役に立つ経験を積む必要があると考えた。

次に、社訓を決定した。人に喜ばれることで、技術を磨いて、地域や学校に貢献する。人に愛されることで、ビジネスマナーや社会性を身につけ、愛される存在になる。人に伝えることで、自分の考えや、困った時に自ら発信できる。これらは、社会で障害ある生徒たちが心豊かに生きていくための指針である。社員（生徒と指導する教職員）は作業学習の朝礼で、3つの社訓を皆で読みあげている。【図2】

【図1】



【図2】



3 作業学習の実践 ～7つの仕掛け

光清カンパニーで目標達成するためには、生徒が主体的に学ぶ多くの工夫と、学園全体を巻き込む熱意が必要だと考えた。実践研究で行った7つの仕掛けを紹介する。仕掛け1～3は「人に喜ばれる力」と関連している。同様に、仕掛け4～5は「人に愛される力」、仕掛け6～7は「人に喜ばれる力」と関連している。

仕掛け1「除菌清掃指導の工夫」

除菌清掃は、障害があっても高度な清掃技術を保てるシステムを採用した。これは障害者に特化した新しい清掃である。扱いやすく、判別しやすい道具でチームを組み、ハイクオリティの除菌清掃を比較的簡単に提供することができる。また、自分の体の幅や届く範囲、反対に動かない部分など、身体感覚も養うことができる。

菌は目に見えないため、指導にはブラックライトに反応する塗料を使用し、手に塗って手洗いの練習をしたり、机に塗って拭き残しを確認したりする中で、丁寧に隅々まで拭き上げる意識を育てた。【図3】

仕掛け2「外部専門家の活用」

本校では、教員の専門性や指導力を高めるために、多くの外部専門家を活用している。光清カンパニーでも除菌清掃専門家の足立友秀氏に、年間8回の指導を受けた。また、明治学院大学で特別支援教育の授業研究を行う、若杉哲文教授にも、年間10回ほど指導いただいた。各専門家の視点から、具体的な指導法や改善点を提案いただき、より良い授業づくりを進めることができた。【図4】

【図3】



【図4】



仕掛け3「事務補助～名刺作成等の工夫」

事務補助では、オリジナルの名刺・干社札シールを作成した。自分が使って嬉しい気持ちになる品をお客様に提供することで、生徒の意欲を高めることができた。名刺は、各社員の画力を生かした似顔絵入りデザインが下級生から人気であった。仕事は、自分のためだけに働くのでは心身の調子に左右される場面が出てくる。「誰かを喜ばせたい」、「人の役に立ちたい」等、献身的な気持ちを在学中から育み、創意工夫で仕事の質を高める姿勢を身につけさせる。今年度は、6月～1月の間に約2000枚の名刺と、800枚のシールを制作することができた。【図5】

仕掛け4「自己理解と、他者との協力を促進する工夫」


光清カンパニーでは、様々な作業経験を積む中で「自分は何が得意で好きか、何が苦手か。すぐ身につけるべき力はどれか。」等を、教員と一緒に考え、作業目標に組み込んだ。苦手なことは、道具や人と協力することで補う姿勢を育てる。スライド右側の図は、進路選択で大事にしてほしい3つの考えである。自分に合う良い仕事とは、「好き」で、「得意」で、そして「世の中の役に立つこと」が理想的である。図の中央の、赤い三角形の面積が広がることで、会社や社会にとって必要な人となり、自己有用感も自然に高まる。【図6】

【図5】

「人に喜ばれる力」を、ぐっと伸ばす！ 仕掛け 3

☆キーワード…技術獲得、身体の使い方、**創意工夫**

事務補助は、**自分たちで考えたデザイン**で、名刺やシールを制作。



【図6】

「人に愛される力」を、ぐっと伸ばす！ 仕掛け 4

☆キーワード…**自己理解**、**指導体制**

- ・自分の「得意」と「苦手」を知って向き合う。
- ・足りない部分は、互いに補いあう。



仕掛け5 「指導体制の工夫」

指導体制の工夫として、3段階を設けた。1段階目は、高等部の全教職員が、生徒を「働く社会人」として接し、正しい言葉遣いや振る舞いを、実践の中で継続して練習させた。必要に応じて他教科でも、作業学習で身につけた言動を再度復習した。2段階目は、学校経営に携わる教員を社員として迎えた。校長に、光清カンパニー代表取締役社長を社員（生徒）から依頼すると、喜んで引き受けてくださった。社長には校長だよりや、他県での実践報告で光清カンパニーを紹介いただき、定期的に社長室の除菌清掃もさせていただいた。同様に副校長や主幹教諭にもPTAとの連携やツイッターでの広報部長など、ご協力いただいた。3段階目は、教員以外の職員を全員巻き込むことである。光明学園で、光清カンパニーを知らない職員は一人もいない。保健室、寄宿舍、経営企画室、給食室、そしてPTAの方々にも、積極的に関わった。除菌清掃や名刺等の配達で出向き、社員の顔と名前を覚えてもらうと、そこから会話が生まれる。全教職員にとって、光清カンパニーの生徒が「この学校の誰か」から、「名前と顔を知る、就労を目指すあの生徒」へと認識が変わり、生徒のモチベーションや成長速度が大幅に向上した。【図7】

仕掛け6 「コミュニケーション力とビジネスマナーを向上する工夫」

社員には、校内で会うすべての人がお客様であると指導した。その準備として、基本的な言葉づかいや、身体さばきを繰り返し練習した。朝礼では、13 の言葉づかいを毎回繰り返し発声し、身についたらそのまま実践で活用させた。例えば「次は、何をしたら良いですか？」という文で、質問することは怖くない。恥ずかしくない。という意識がいつの間にか身に付き、自分から率先して次の作業を請け負うことができる。

身体さばきも同じである。肢体不自由の生徒は、こまやかな身体のコントロールが苦手とする。例えば廊下の端を一行に並んで移動するには、前後左右の距離感など移動しながら体感させ、繰り返し練習させる。向かい側からお客様が来た場合、どれ位の距離感で息を吸って挨拶するのか、社員によって指導を変える。「相手に伝わるよろこび」は、次の一言を話す勇気を確実に高める効果がある。【図8】

【図7】


「人に愛される力」を、ぐっと伸ばす！ 仕掛け 5

☆キーワード…**自己理解**、**指導体制**

全校を**巻き込み**、全校で進路選択を**応援**する。全校で**育てる**。

- 1段階…高等部教職員⇒働く社会人として、接する。
- 2段階…学校経営に関わる教員を社員として迎える。
- 3段階…保健室、寄宿舍、経営企画室等やPTAも味方！

「皆が、ぼくを、私を知っている！」

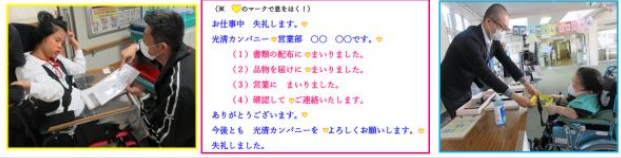


【図8】

「人に伝える力」を、ぐっと伸ばす！ 仕掛け 6

☆キーワード…**コミュニケーション**、**ビジネスマナー**、**存在感**

敬語、ビジネスマナーは**繰り返**しと**実践**あるのみ！**五感**で身につける。
挨拶、返事、報告、相談、笑顔、姿勢、目線、距離感など



【※】①のワークで配布はく！
お仕事 失礼します。☺
光清カンパニー 営業部 OO 〇〇です。☺
(1) 書類の配布に☺まいりました。
(2) 品物を届けに☺まいりました。
(3) 営業に ☺まいりました。
(4) 確認して☺ご連絡いたします。
ありがとうございます。☺
今後とも 光清カンパニーを☺よろしくお願ひします。☺
失礼しました。

仕掛け7「生徒の存在感を高める工夫」

スーパーヒーローは、アイテムを身にまとい変身する。光清カンパニーも学園のヒーローになるべく、ユニフォームが欲しかったが、学校予算では自由なデザインで制作するのが難しい現状があった。社長に相談すると、社員（生徒）に対して「君たちの頑張りに応じてスポンサーをみつけるよ。」と言われた。社長の言葉に歓喜した社員たちは、コツコツと作業学習で努力を重ねた。その間、私は東京都教職員互助会の教育研究支援制度に応募し、獲得した研究助成金でユニフォームを制作することができた。清掃カートと同じ色で仕立て、生徒がデザインした社名ロゴを胸と背中に装着した。ユニフォームを着用するだけで、生徒のやる気や機敏性など格段に上がり、言葉遣いも社会人を意識した話し方になる等、非常に効果が大きいものであった。

また、高等部内でも「よく似合っているね。」と他の生徒が褒め、小中学部の下級生は、「お兄さん・お姉さん、カッコいい!」、「私も光清カンパニーに入れるかな。」と憧れの意識をもっている。これこそ、小中高と連続したキャリア教育のつながりである。【図9】

4 本校の全国公開研究発表会での実践報告

上記の7つの仕掛けを中心に、令和4年2月5日に本校で開催された、「東京都立光明学園 全国公開研究発表会」(オンライン開催)にて、20分間の実践報告を行った。全国から300名を超える参加者があり、本研究の成果を広めることができた。

また、株式会社たすく齋藤 宇開 氏による講評と、障害者の就労に向けた記念講演をいただいた。参加者からも「作業学習の進め方や工夫点について、大変参考になった。」等の感想をいただいた。

5 まとめ

生徒は当初、自分に自信がもてず、活動や学習に対して常に受け身であった。真面目ではあるものの、おとなしく、指示以外の事は自分から行わない。学校が好きだけれど、自分がその中心になって何かを成し遂げようとは、全く思いつかない様子であった。

まだ10ヶ月の実践だが、生徒たちは自分の力を発揮できるようになり、大きく変容し始めている。学習に主体的に取り組み、のびのびと良い表情で新しい活動に挑戦している。生徒が光清カンパニーや光明学園生であることに誇りをもち、自己有用感をもって作業学習に挑む姿は、私たち教職員も更に良い教育を提供しようという、情熱と工夫とチームワークの原動力となっている。【図10】

次年度は、本研究の二年目となる。生徒にとってより良い作業学習を模索しながら、肢体不自由者の進路開拓や社会参加にもつなげていきたい。

【図9】

「人に伝える力」を、ぐっと伸ばす! 仕掛け 7

☆キーワード・・・コミュニケーション、ビジネスマナー、**存在感**

・ユニフォームの導入・・・「生徒」から「社員」へ**変身**する。

同級生、下級生から**憧れられる存在**になる。



【図10】

光清カンパニーの10ヶ月、生徒の大変身!

令和3年、4月	令和4年、1月
<ul style="list-style-type: none">挨拶・返事・報告や質問ができない。声を出すことが恥ずかしい。自分の身体特徴、得意や苦手な作業を知らず、何をしたら良いかわからない。光明学園への帰属意識が薄く、提示された活動には真面目に取り組む。将来を現実的に考えることが難しい。	<ul style="list-style-type: none">定型文での会話はスムーズになり、自分の考えや意見を堂々と発言する。道具の扱いが上達し、やることがわかる。働く喜びを知り、自信をもつことができた。ユニフォームや、光清カンパニーに誇りをもって作業学習を楽しんでいる。自分にあった進路先や実習先を希望。